

ふきだシールッ！

■ふきだしに使われる作品の小解説

I. 自画像

2・1960年の自画像

アンソールは1860年生まれだから、ここに描かれているのは100歳の自画像だ。

II. 肖像、静物

10・奇妙な昆虫たち

コガネムシ（アンソール）が、トンボ（女性）に恋をしている。

13・イベルダムフリドランとグラガパンサ

笛を吹いているのがアンソールで、それに合わせて踊っている友人との思い出。

V. 幻想とグロテスク

89・幽霊のとりついた家具

古い家具の背後からガイコツが現れ、それを見つめる人物にあいさつをしている。

92・天使と大天使たちを懲らしめる悪魔たち

アンソールが女嫌いだったことを感じさせる作品。

112・人間の群れを狩りだす死

真っ昼間の道で大カマを振りかざした死神と子分があらゆる階層の老若男女におそいかかっている。

134・死によって支配されている七つの大罪

それぞれの大罪の登場人物たちの上に、つばさのあるガイコツが君臨している作品。

VI. 諷刺、風俗、歴史など

141・善き裁判官たち

机の上に人体の一部や刃物などがあることから、殺人事件の裁判でわかることがわかる。

142・悪しき医者たち

患者の苦しみを考えない医者たちのいいかげんさを強くうったえた諷刺画。

157・オーステンドの海水浴場

ヨーロッパ有数のリゾート地で、海水浴客のいろんな姿を描いたもの。

■アンソール作品と諷刺（ふうし）

アンソールは、世の中をすどく観察し、権力や高い地位にある人々の悪や不正、おろかさなどを 諷刺する* 作品を多くつくりました。アンソールが作品を通してうったえようとしたことは、きっと現代の私たちも、通じる場所があるに違いありません。

「ふきだしシール」をつかって、自由にセリフを想像することによって、作品の中に入り込み、私たちの目で、新しくアンソール作品を見つめ直してみましょ。未来の人々に、新しいインスピレーションを与え続けていくことこそ、アンソールの目指したことなのではないでしょうか。

*諷刺（ふうし）：社会や人物に対して、直接悪口を言うのではなく、作品の表現などを通して、遠回しにうったえかけること。